

## 新型コロナウイルス感染症対策支援 (11 月)

### NIHE へのワクチン輸送用コールドチェーン機材引渡し式を実施



引渡し式 (左から 3 番目: NIHE アイン所長、左から 2 番目: JICA ベトナム事務所清水所長)

11 月 12 日、JICA は、国連児童基金 (ユニセフ) ベトナムを通じて調達した、冷蔵ボックスと温度管理記録計のセット 1,600 台 (総額 1 億円) を、国立衛生疫学研究所 (NIHE) に引渡しました。

現在ベトナムでは、過去最大規模のワクチン接種キャンペーンを実施中です。今回供与される冷蔵ボックス (RCW25、B メディカル・システムズ) は、郡レベルの医療施設へのワクチン輸送に使用されます。また、温度管理記録計は、ワクチンの品質管理のため、全行程を通して 2 ~ 8 °C で保管されることを監視するものです。

式典で、NIHE の Dang Duc Anh 所長は「現在、全国レベルでワクチン接種キャンペーンを展開しており、これまでに 9 千 600 万回分のワクチン接種を実施し

た。これまでの日本政府の 408 万回分のワクチン支援とともに、今回の支援による冷蔵ボックスは郡レベルの医療施設までのワクチン輸送に有効に使用されるもの。保健省、NIHE を代表してお礼を申し上げる」と述べました。また、JICA ベトナム事務所清水所長は「現在、ハノイやホーチミンといった都市部ではワクチン接種が進んでいる。本支援が、今後より広く全国各省でワクチン接種キャンペーンを推進するための一助になることを願う」と述べました。

JICA は、2021 年 7 月より国際移住機関 (IOM) の協力を得て、国境からの感染拡大の予防・防疫体制強化を目的とした支援も実施中です。新型コロナウイルスの感染では、国境ゲートを通らない不法入国者によるベトナム国内へのウイルスの持ち込みから、市中感染が広がる事例が発生しています。このような感染拡大を防ぐため、JICA はカンボジアやラオス国境に位置する 5 省 (ゲアン、ハティン、タイニン、アンザン、ドンタップ省) に対する、感染症の調査・監視に関する政府職員的能力強化や、国境管理に必要な感染予防のための個人用防護具や消毒薬、簡易手洗い場設置のための資機材等の供与を行っています (総額 2 千万円)。

JICA は今後とも日本政府と連携して、ベトナムの新型コロナウイルス対策の支援に取り組んで参ります。

\*プレスリリース (11 月 12 日) : [https://www.jica.go.jp/vietnam/office/information/press/ku57pq00003uemn2-att/202111\\_03\\_ja.pdf](https://www.jica.go.jp/vietnam/office/information/press/ku57pq00003uemn2-att/202111_03_ja.pdf)



#### 目次

##### 【巻頭】

- ・新型コロナウイルス感染症対策支援 (11 月)
- NIHE へのワクチン輸送用コールドチェーン機材引渡し式を実施 1
- ライチャウ省ワクチン接種体制の整備・能力強化支援を開始 2
- チョーライ病院への医療機材引渡し式を実施 2

##### 【成長と競争力強化】

- ・「クアンチ省陸上風力発電事業」の完工及び発電開始 (海外投融資) 3
- ・日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト
- 2021 年日越大学入学式及び学位記授与式を開催 3
- 日越大学とお茶の水女子大学との COIL プログラムの実施 4
- ・日本の開発経験に関する JICA チェア特別講義を開催 5

## ライチャウ省ワクチン接種体制の整備・能力強化支援を開始



11月22-24日、Covid-19 ワクチン接種能力強化について研修を実施。  
写真はコロナワクチン接種後のアナフィラキシーショックへの対応研修の様子。

11月11日、新型コロナウイルス感染症対策として、JICA は、ライチャウ省人民委員会・保健局の要請を受けて、「ライチャウ省 COVID-19 ワクチン接種体制の整備・能力強化」（2021年11月～2022年3月）の支援を開始しました（総額1千万円）。

同省保健局は、新型コロナウイルス感染症対策として「ライチャウ省ワクチン接種計画2020-2022」を推進しており、JICA は本事業を通じて、医療従事

者及び補助員に対する研修や、ワクチン接種会場への設置が義務付けられている資機材（非接触式体温計、血圧計、手指消毒剤等）の整備を実施することで、同計画に貢献します。

ライチャウ省では、ハノイやホーチミンへの出稼ぎ等の者による感染が増加しており、ワクチン接種を進めていくことが喫緊の課題となっています。現在、同省の必要回数のワクチン接種を完了した者（18歳以上）は85%、続いて対象となった12～17歳では、第一回目接種の割合が36%の状況です。今後、政府の方針に沿う形で、接種を進めていく予定です。

ライチャウ省では、ベトナムの主要民族のキン（ベト）族は少数派で、ターイ、モン、ザイ、ザオ族等の少数民族が8割以上を占めます。これらの少数民族は独自の言語を持ち、ベトナム語を理解する者も限定的で情報弱者でもあります。本件を通じて、ワクチンの有効性やワクチン関連情報等のコミュニケーション活動を実施し、ワクチン接種を促進することが重要です。

[\\*JICA ベトナム事務所 Facebook \(11月27日\) :ライチャウ省  
ワクチン接種体制の整備・能力強化支援を開始](#)



## チョーライ病院への医療機材引渡し式を実施



引渡し式（右：チョーライ病院トゥック院長  
左：JICA ベトナム事務所ホーチミン出張所増田首席）

11月5日、ベトナム南部地域における新型コロナウイルス感染症対策支援として、JICA は、チョーライ病院への医療機材の第1バッチ（超音波装置：2台、患者監視装置：20台、人工呼吸器：10台、可動式デジタル X 線装置：1台）の引渡しを行いました。本支援は、7月にチョーライ病院からの要請を受けて、同病院が担う新型コロナウイルス感染症患者の診断・治療に必要な機材支援を行うことを決定し、

実施したものです（総額1億2千万円相当、全3バッチに分けて21年度内に引渡し予定）。

ホーチミン市では、長い間の経済活動の停止によりホーチミン市から帰郷した人々経由で地方の感染拡大が起きていることから、チョーライ病院は引き続き各地方省への支援を行っています。

オンラインで引き渡し式に参加した JICA ベトナム事務所清水所長は「第4波に対し、チョーライ病院医療従事者の皆様が日々重責に果敢に取り組まれる姿に心を打たれました。本支援が、チョーライ病院を通して、ベトナム南部地域の医療を支える一助となることを期待します」と述べました。これに対し、チョーライ病院のグエン・チ・トゥック院長は「JICA の新型コロナウイルス感染症に対する支援は、昨年が続いて2回目となる。今回の資機材は、ICU、熱帯病科、院内感染対策科、微生物科で使用するもの。迅速な支援に、チョーライ病院を代表して、またベトナム国民の一人として感謝申し上げる。この困難を日本とともに乗り越えてまいりたい」と述べました。

チョーライ病院と日本の関わりは 1970 年代に始まりました。その後も JICA の技術協力による支援が継続して行われています。2016 年に開始された「チョーライ第二病院向け病院運営・管理能力向上支援プロジェクト」では、ベトナム南部地域における質の高い医療サービスの提供を目指して、感染管理や患者安全管理の強化、多職種連携等の活動を支援してい

ます。また、チョーライ病院に対する新型コロナウイルス感染症対策支援としては、昨年 7 月に続いて、今回が 2 度目となります。

JICA は引き続き日本政府と連携し、新型コロナウイルスを含む感染症対策への支援に取り組んで参ります。

\*プレスリリース (11 月 5 日) :

[https://www.jica.go.jp/vietnam/office/information/press/ku57pq00003uemn2-att/202111\\_01\\_ja.pdf](https://www.jica.go.jp/vietnam/office/information/press/ku57pq00003uemn2-att/202111_01_ja.pdf)



## 成長と競争力強化

# 「クアンチ省陸上風力発電事業」の完工及び発電開始(海外投融資)



クアンチ省陸上風力発電事業  
(写真提供: PowerConstructionJointStockCompanyNo. 1)

JICA が資金協力したベトナム中部クアンチ省における風力発電事業が完工し、10 月 31 日までに商業運転を開始しました。

本事業は、ベトナムの Power Construction Joint Stock Company No.1 と日本の株式会社レノバが出資し、JICA は今年 5 月に最大 2,500 万米ドルを供与

する融資契約に調印、アジア開発銀行 (ADB) 及びオーストラリア政府傘下の ExportFinanceAustralia との協調融資で支援しました。

11 月 3 日、ベトナム電力公社は、10 月 31 日の風力発電における固定価格買取制度の期限までに全国で 69 件 (合計出力 3,298.95MW) の事業が商業運転を開始したと公表し、そのうち 3 件 (合計出力 144MW) が本事業にあたります。

ベトナム政府は、現在英国で開催中の国連気候変動枠組条約第 26 回締約国会議 (COP26) において 2050 年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロ (カーボンニュートラル) を目指すことを表明しましたが、JICA は民間企業・国際金融機関等との協働により同目標の達成に貢献していきます。



## 成長と競争力強化

# 技術協力「日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト」

## 2021 年日越大学入学式及び学位記授与式を開催



日越大学修士 4 期生修了式 (左から 5 番目: VJU 古田学長  
左から 2 番目: 元 JICA 事務所インターン生の Le Thi Ngoc Diep さん)

10 月 30 日、日越大学 (VJU) は、オンライン形式で 2021 年入学式及び学位授与式を開催しました。両式典において、学士 2 期生 95 名・修士 6 期生 65 名が入学、修士 4 期生 59 名に学位記が授与されました。

式典には、日越大学の講師や学生のほか、来賓として、クアンベトナム国家大学ハノイ校総長、ルア越日友好協会会長、ズン党中央委員会委員・フーイ

エン省党委員会書記、武部勤日越友好議員連盟特別顧問、在ベトナム日本国大使館山田滝雄大使、JICAベトナム事務所清水所長、在ベトナム日本企業の代表者が参加しました。

また当事務所でインターンをしていた修士課程2年生の Le Thi Ngoc Diep さんが、気候変動と開発プログラムの首席として表彰されました。式典後、Diep さんは「VJU で知識や経験を蓄積し、人間関係を広げることが出来ました。VJU の講師から習った『継続は力なり』という日本語が好きです。困難な

ときもタイムリーなサポートを頂き、前進し続けることで、修士課程を無事に修了できました」と VJU への感謝の意を表しました。

2023 年の日越の外交関係 50 周年に向けて VJU の学生が日越友好の懸け橋になることが期待されます。

日越大学プレスリリース：

[https://vju.ac.vn/images/upload\\_file/2021%E5%85%A5%E5%AD%A6%E5%BC%8F\\_%E5%AD%A6%E4%BD%8D%E8%A8%98%E6%8E%88%E4%B8%8E%E5%BC%8F\\_1636083790.pdf](https://vju.ac.vn/images/upload_file/2021%E5%85%A5%E5%AD%A6%E5%BC%8F_%E5%AD%A6%E4%BD%8D%E8%A8%98%E6%8E%88%E4%B8%8E%E5%BC%8F_1636083790.pdf)



## 日越大学とお茶の水女子大学との COIL プログラムの実施



日越大学とお茶の水女子大学の学生代表が活発に議論に参加しました

11月25日、JICAベトナム事務所は、日越大学と日本のお茶の水女子大学による COIL (Collaborative Online International Learning) プログラムに参加しました。COIL は ICT を用いてオンラインで海外大学との交流をおこなう教育手法で、学生は自国にいながら費用を掛けずに、国を越えた学生間の学び合いが可能となります。お茶の水女子大学は COIL を活用することで、通常授業の中で国際協働学習を提供しており、本プログラムも正規科目「国際協力特論」の一環として実施されました。一方、日越大学は、お茶の水女子大学のほか、法政大学や関西学院大学など多くの大学と COIL 型の学術交流を進展しています。

このプログラムには、COIL 型の学生間交流として、両大学の学生 30 名が参加しました。またコメンテーターとして、お茶の水女子大学の小中鉄雄 特任教授、日越大学の学務担当の山口昌志 JICA 専門家、当事務所員の石丸所員やインターン（日越大学の院生 2 名）も出席しました。

当日はまず、両校の生徒が自分の学校についてプレゼンテーションを行いました。ベトナム人学生にとって日本の女子大学の概念が新鮮で、ジェンダー平等に資する役割があるのか等、活発な質疑もなされました。また日本人学生は、日越大学の学生の英語のみならず日本語の能力の高さに感銘を受け、ベトナム語に親しもうと挨拶の練習をしました。

次に、お茶の水女子大学の学生が、カンボジアの教育事情を例として、コロナ禍で教育セクターが直面している課題について発表しました。その後、事務所インターンの司会の下、両大学の学生は、ベトナムや日本の状況についても活発な議論を交わしました。すべての学生が、自分の意見や個人的な経験を共有し、教育システムに関連する意見交換をしました。

最後にコメンテーターとして、当事務所員から、ベトナムの教育セクターにおける JICA の取り組みについて概観し、両大学の参加者にお礼を述べました。また、両大学の教員から、COIL は、教員間の共同研究にも資するメリットがあり、大学や地域社会の国際化につながるの、今後の両大学間の活発な学術協力について更に期待するとの感想が述べられました。

当事務所は引き続き、COIL 等の ICT 活用を通じて、日本とベトナムの大学間協力を促進していく所存です。



## 日本の開発経験に関する JICA チェア特別講義を開催



東京大学 岡崎哲二教授による JICA チェア特別講義「日本の経済発展と “Great Convergence”」

11月29日、JICA ベトナム事務所は、在越日本国大使館と連携し、ベトナムの関連大学の研究者や学生を対象に、日本の開発経験に関する特別講義をオンライン形式で開催しました。東京大学の岡崎 哲二教授、当地の有識者であるベトナム社会科学院北東アジア研究所 ファム・クイ・ロン 所長、日越大学古田 元夫 学長、在越日本国大使館 岡本典子二等書記官、JICA ベトナム事務所清水所長、14の大学から講師や学生のほか、日本の研究機関、ベトナム企業から計260名以上が参加しました。

JICA は、開発途上国の将来のリーダー育成の一環として、各国のトップクラスの大学などを対象に、日本研究の講座設立支援を行うプログラム「JICA チェア」（日本研究講座設立支援事業）を2020年から実施しています。今回の特別講義もその一環で実施しました。

講義ではまず、東京大学 大学院経済学研究科の岡崎哲二教授から、戦前の製糸事業と戦後の製鉄業の事例等も示しながら、経済学理論に依拠した日本経済史の分析を通じて、日本が経済発展を経て “Great Convergence”（欧米とアジアの経済格差の縮小）

の先駆けとなった要諦は、先進国技術の借用と、それによる急速な経済発展を支える制度・組織の革新であったことが説明されました。

その後、ベトナム社会科学院のファム・クイ・ロン北東アジア研究所長は、戦前フランスからの技術導入に失敗し、戦後はアメリカの戦争相手となったベトナムと比較する視点で、日本の経済成長の成功要因として、国内事情と国際事情の双方から補足意見を述べました。また、日越大学の古田元夫学長は、日本の経済成長がアジアに与えた影響について戦前と戦後に分けて述べ、今世紀のさらなる “Great Convergence” で日本が果たすべき役割について質問しました。

最後の質疑応答では、自国予算でお雇い外国人を招聘することが国の発展に与える影響、経済発展初期に関する世界的傾向や政策の在り方等について質問がなされました。

この講義は、[ベトナム国会テレビでも報道](#)されました。日本は非西洋で先進国となった最初の例ですが、道のりは決して平坦なものではなく、敗戦からの復興を果たすなど、紆余曲折を経て現在の民主的な国を築き、国際協力を実施してきました。こうした経験は、欧米とは異なる発展モデルを提供していると考えます。同じアジアの国として、自国の発展にあたり、これら日本の経験は大いに参考になるのではないかと考えています。今回の講義や今後の「JICA チェア」の取り組みを通じ、日本の開発経験がベトナムの発展に応用されることが期待されます。



JICAベトナム事務所では、本月報を通じて皆様との情報共有を目指しています。ご意見、ご要望は、vt\_oso\_rep@jica.go.jpまでお送り下さい。

Website<https://www.jica.go.jp/vietnam/index.html>（日・越・英）

Facebook<https://www.facebook.com/jicavietnam>（越）発行：JICAベトナム事務所広報班